

平成 23 年度第 1 回 高知県医療審議会保健医療計画評価推進部会

議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成 23 年 12 月 12 日（月） 19:00～21:00
- 2 開催場所 高知共済会館（3 階藤の間）
- 3 出席委員 安田委員、岡村委員、織田委員、田中委員、田村委員、筒井委員
細木委員、堀委員
- 4 事務局出席者
医療政策・医師確保課：橋口企画監、岡林課長補佐、高橋チーフ、前田主幹
健康長寿政策課：吉村チーフ、医事業務課：石原チーフ、黒岩チーフ
健康対策課：戸田課長補佐、食品衛生課：山本課長補佐
高齢者福祉課：山本地域ケア体制整備推進チーム長、障害福祉推進課：濱田主幹

5 内容

(1) 議題 1 第 6 期医療計画の項目の構成案について

（意見）医療ソーシャルワーカーについて、医療連携等の重要な役割を果たしているため、コメディカルに追加していただきたい。

（回答）追加する。

（意見）精神疾患の医療は、民間病院と自治体病院では全く異なっている。入院期間で言えば、高知県の民間病院では 200 日前後となっているが、岡山県の自治体病院では、一月で退院させており、これは一般病院の急性期の入院期間と変わらない状況である。高知県の精神疾患の医療についてはデータが全くない。医療計画を策定するにあたっては、現状を十分、把握したうえで精神障害者のケアを考える必要があるため、高知県の精神疾患の医療の現状が把握できる資料を提出していただいたうえで議論を進めていただきたい。また、計画を策定するにあたっては、計画案を作る前に資料として提示していただいたうえで検討させていただきたい。

（回答）精神疾患については、会議を立ち上げて検討していく予定である。その会議の資料を評価推進部会でもお見せすることとしたい。

（意見）在宅医療について、今後、地方では高齢者が増加するが、郡部での在宅医療

は極めて難しい。在宅医療を検討するにあたっては、高知県の人口動態や在宅医療の現状を十分、把握したうえで検討を行い、机上の議論とならないようにしていただきたい。また、指標については、高知県の地域の実情に沿った内容で検討していく必要がある。

(回答) 今後、国の策定指針が示されるが、指針どおりに策定するのではなく、高知県の地域の実態に即した計画を策定していくこととなる。

(意見) 「高齢者保健福祉施策」について、別計画と重複するため記載を省略する方向とのことだが、高齢者がいかに元気で生活してもらうかが大切であり、その取り組みが一番重要となってくる。この取り組みが十分できれば医療の必要も少なくなる。

(回答) 今後、検討する。

(意見) 「食の安全・安心の推進」について、今後、放射能汚染の問題が重要となってくるため、第6期でも十分な検討をお願いしたい。

(回答) 基本は医療計画であるが、現行の計画では保健が入り幅広くなっている部分があることから、他の計画でカバーできているものについては、医療の計画からはトーンを落としていきたいと考えている。もちろん、今後、検討する中で必要となれば記載することとなる。

(2) 議題2 患者動態調査の結果について

(意見) 小児科の入院における受療動向において、高幡医療圏と安芸医療圏では中央医療圏に100%流出しているが、偏在しすぎているのではないか。

(回答) 小児科の入院施設については、高幡医療圏には無く、安芸医療圏には県立安芸病院があるが、この調査は一日限りのもので、たまたま、安芸では小児科の入院患者がいない結果となった。

(意見) 調査対象として歯科を除く理由を説明してほしい。また、歯科を除くとしながら、一方、受診診療科目では「歯科」と「歯科口腔外科」があるので整合がとれていないのではないか。調査した歯科と歯科口腔外科がある病院はどこか説明していただきたい。

(回答) 歯科を除く理由は、歯科での治療は、通常、一つの医療機関で完結するため、医療機関の連携を考慮する必要が薄いと考えられることから調査対象から除いている。

調査対象から歯科診療所を外していながら、受診診療科目に歯科が記載さ

れているのは事務局の誤りのため削除する。歯科口腔外科は、顎口腔領域の外傷などの外科処置を中心とする一般外科の一分野として調査対象となる。

*県内で歯科口腔外科を標榜している病院は6病院あり、全て調査対象となっている。

*会の資料では、受診診療科目別の救急の状況として、診療時間内の受診を除く数値となっていたため、別添の資料を追加。

*「歯科口腔外科」では、診療時間内の受診患者が入院と外来合わせて156人（外来140人、入院16人）であった。（別添の資料参照）

（意見）受診診療科目別の救急の状況別の入院（資料38P）と外来（資料39P）と、入院と外来の合計（資料40P）が横軸の数値がおかしいのではないか。普通は、外来が多くて入院が少ないのではないか。

（回答）確認した結果、この調査は、外来については調査当日のみの患者であるが、入院については、調査当日に入院した患者だけでなく、調査当日時点で入院している患者全てが対象となっているためである。

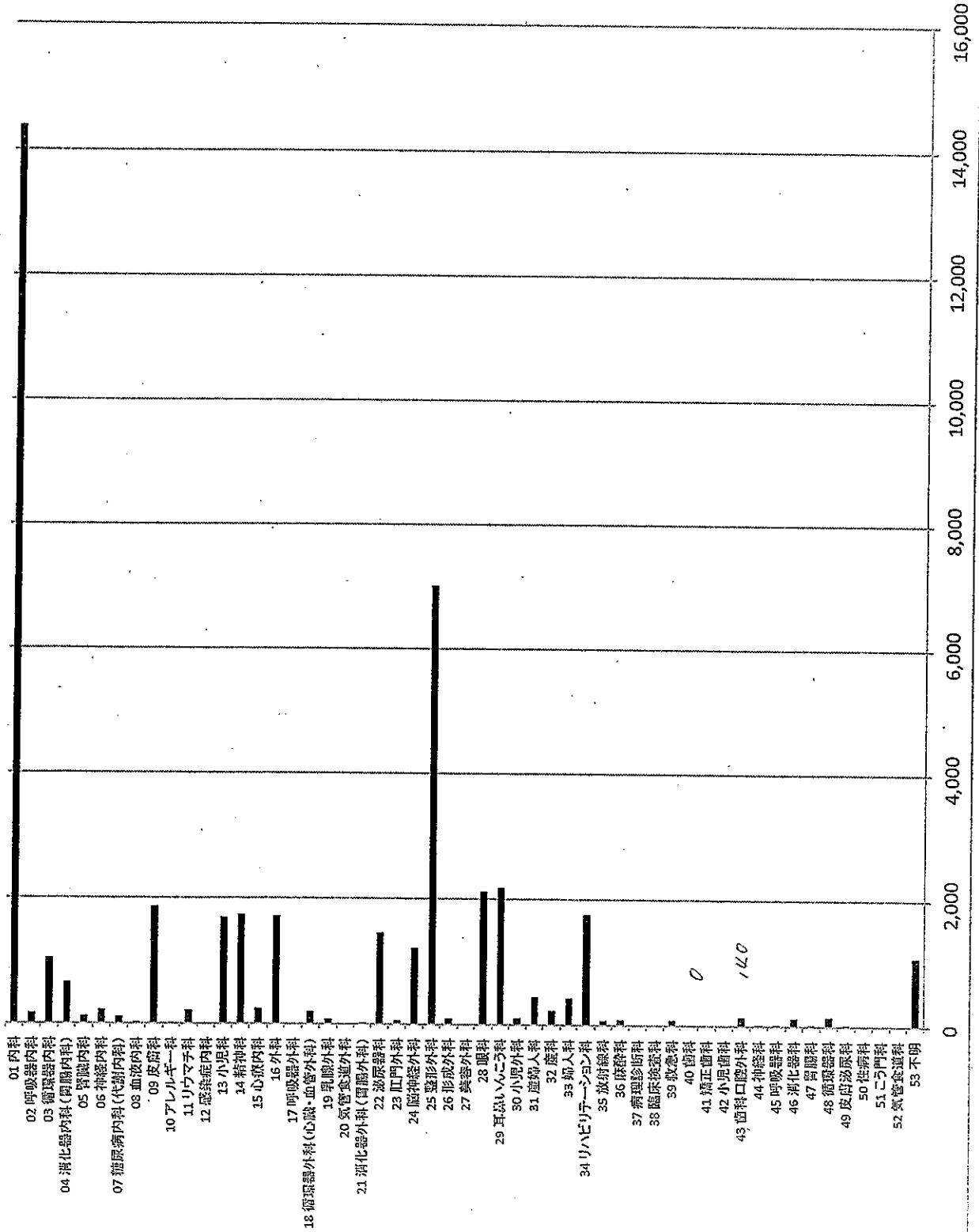
（意見）小児科の入院や産科も中央医療圏への流出が多いが、地域で産むことができないと育てることができないのではないか。

（意見）大きい病院で出産した後は、地元へ戻るため小児科は必ず必要となる。

（回答）妊婦の多くが、安心を求めて中央部の大きな病院で出産する傾向がある。妊婦健診は、地元の婦人科で受けているが、一定時期になると中央部の大きい病院へ転院し出産している。

追加③受診診療科目別の救急の状況別(外来)

図4 診療時間内の受診





追加③受診診療科目別の救急の状況別(入院)

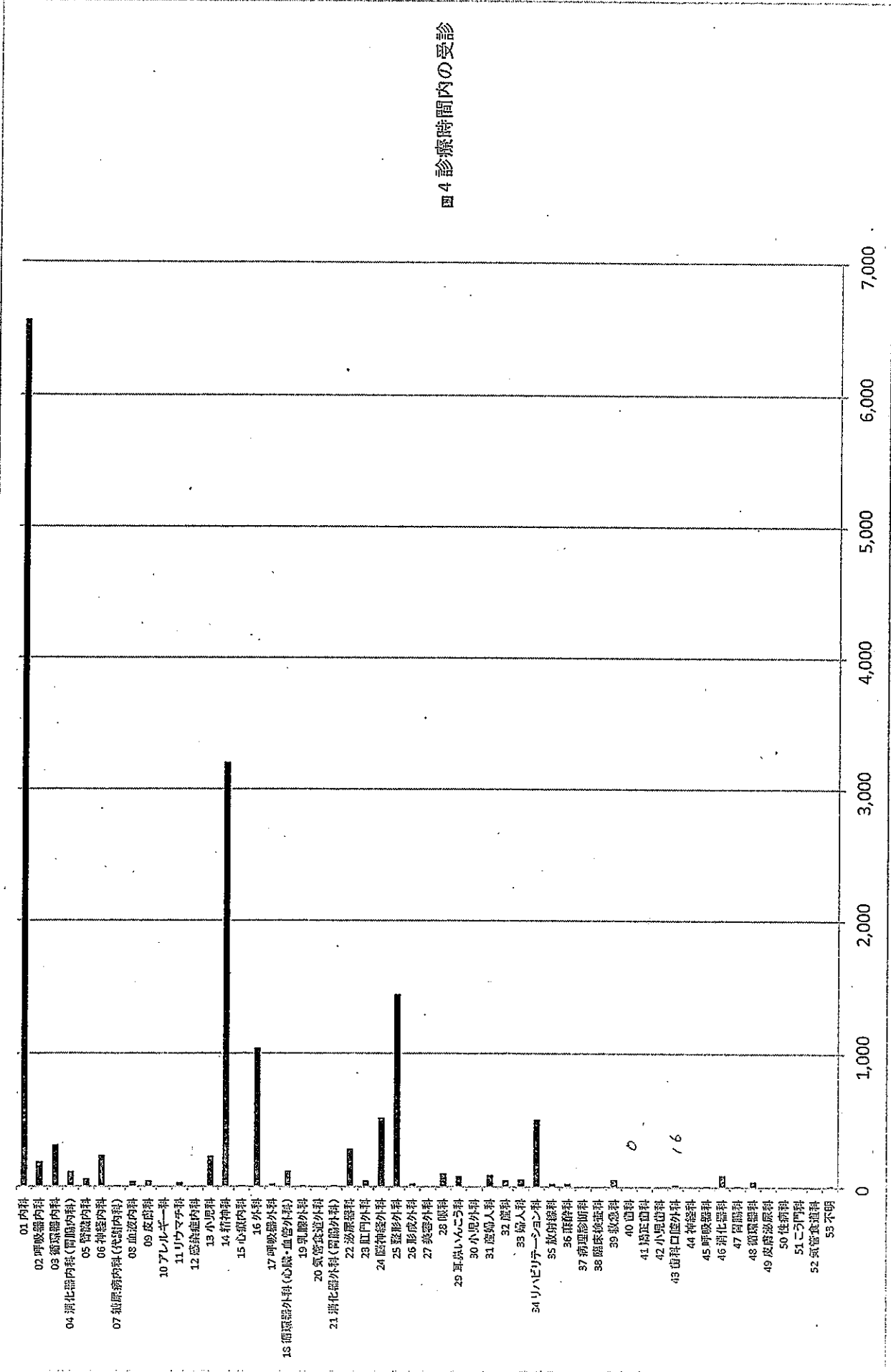


図4 診療時間内の受診



加③受診診療科目別の救急の状況別(外来+入院)

4 診療時間内の受診

